

光トポグラフィ装置は、脳機能を測定する最新の機械で比較的簡便に測定でき、子どもの脳機能の測定など臨床面での応用が期待されています。この装置を利用して指を動かしている時の運動にかかわる脳機能を測定し、その様子を観察していただきました。

当日、実施されていた短期研修の講義・演習や1年間の宿泊研修の長期研修員に対する担当研究者による指導の様子を視察されました。

このほか、研究成果報告を交えて、LD(学習障害)の子どもたちの認知や心理面について理解を深めていただくための疑似体験をしていただきました。

総務省職員26名は、4時間以上にわたる視察でしたが、終始積極的な姿勢で研修を受けられ、適宜質疑応答もあり、充実した研修となったようです。

## 原 行政改革推進室専門職が講演し、職員と意見交換

平成17年2月3日、文部科学省行政改革推進室の原 専門職が来所され、独立行政法人の組織・業務全般の見直しに関する情勢について講演し、職員と活発な意見交換を行いました。

特に、政府として昨年未決定された前倒し法人の見直し内容について、最新の情報提供があり、本年決定される当研究所の組織・業務全般の見直しへの対応に向けて貴重な機会となりました。



## 日本学生支援機構 芝田 企画部長 特殊研・久里浜養護を視察

平成17年2月17日、独立行政法人日本学生支援機構の芝田 企画部長が、当研究所の事業体制及び研究内容に関する状況把握並びに今後の連携方策について意見交換のため、来所しました。

当研究所と日本学生支援機構は、16年度後期以降新たに「高等教育機関における発達障害のある学生に対する支援に関する全国実態調査」を共同研究として取り組んでおり、成果の還元等について関係者間で率直な意見交換が行われました。

また、当研究所のコーディネートにより、併せて隣接の筑波大学附属久里浜養護学校(当研究所との相互協力機関)を訪問し、知的障害を伴う自閉症児の教育課程編成及び学習活動を視察されました。

## 元研修員からの近況報告

### 長期研修の思い出

静岡県立沼津養護学校教頭 木村 邦孝

私は平成9年度の長期研修生(肢体不自由教育)として、1年間研修をさせていただきました。研究所の先生方の講義や、選択して受講させていただいた短期研修の講師の方々の講義やワークショップも、贅沢なほど充実していました。

当時、私は自主的に2種類のカードを作りました。一つは、読んだ文献の内の主なものについて、そのエッセンスをまとめたキャンパスカード(B6判)で、70枚を超えました。そしてもう一つは、書物や講義の中で出合った、心に響いたキーワードやキーセンテンスを書き抜いたカード(名刺判)で、120枚を超えました。これらは、今でも大切なものであると同時に役立ってまいります。

また、北海道から九州までの研修仲間との情報交換や意見交換、そして、各地から送られてきた名物や地酒等を囲んでのミーティングルームでの親睦は、懐かしい思い出です。

時が経ち、研修出張先の東京や久里浜等で、当時の仲間に出会った時、懐かしい仲間の生き生きした表情に励まされ、私もがんばろうと素直に思えます。また、他県の情報が欲しい時には、仲間のネットワークは心強くありがたいものだと感じています。

これからも研修に励み、微力ながらも特別支援教育のために尽力することが、久里浜の地で学ばせていただいた者の務めであると思っています。



平成9年度 国立特殊教育総合研究所長期研修(後列右から3人目)